

ウエンカムイ ● 菅野彰一

狼の遠吠えのごと風唸り北極星は小熊座にある
 棲み分ける術マユなどありや水榭の大樹の幹の熊の爪痕
 白樺は甘き樹液に満ちておりへ春のヒゲマ注意特別期間
 山麓の森を拓きし街の端の林檎の園に電気柵あり
 山道の市境標識越え来たる蝦夷鹿夜半に轢き殺されき
 軍馬ウエノカムイなき軍馬山なる山裾を辿る小径に延齡草咲く
 悪しき神ウエノカムイとなりたる罫は罵られ異教の民に眉間撃たれき
 風不死カムイ岳 カムイエクウチカウシ山 沼田幌新 蝦夷紫咲く
 原生林を囲む植物園の午後 エルムは水の柱なりけり
 はつなつの博物館の暗闇に人喰い熊の剥製のあり
 一缶のビール携え参る墓、風が呻きて我を過ぎゆく
 風景に赤いトマトが残されて思い出すたび時間は進む
 デントコーンの碧き茂みのあちこちに食痕のあり秋の陽照らす
 牛飼いは開拓民の末ならん熊牛という名の村ありき
 標茶町セイコーマートの窓越しの北天はるか大熊座あり
 感染症病棟閉ざされ黄昏にノイズ交じりの放送流る
 熊撃ちの吐く息白く棚引きて神殺しの野を覆う新雪
 主なきオオカミの森、虹架かる原野に白く川の流れる
 走り去るすべてのものに影はあり夜空を狼ウルフ月の渡る
 振り返りにされた獵師の墓の辺に青紫の葺トリカネ咲く